



私にとっての桜本教会の 路上生活者支援

桜本教会牧師
下園昌彦
(第71回卒)

私は2021年3月に農村伝道神学校を卒業し、翌4月から川崎南部に位置する日本キリスト教団桜本教会で伝道者としての生活を始めました。

今でも忘れられず、今だからこそ、その意味を深く知ることになった出来事があります。私の招聘を承認するために開かれた、桜本教会の総会で遭遇した出来事です。

それまでも、桜本教会が続けてきた「路上生活者支援」の活動が、招聘時の強い要請として求められていることは自覚していました。桜本教会の活動のことは人づてに聞いていましたし、私自身も「できることならば、引き続いて取り組んでいきたい」「挑戦したい」と考えて招聘をお受けしたつもりでした。しかしこのときに、実際に私の目の前で、「必ず続けると約束してください」「朝の準備はもちろん、買い物も私がお手伝いしますから」「先生、私たちみんなで支えますから」と口々に訴える、お一人お一人に出会わされたとき、そのことの重大さに改めて気づかされ、震える声で「私のでき得る限りの力を尽くして、取り組みます」と答えることしかできませんでした。

桜本教会では1994年から現在までの30年に渡り、「路上生活者支援」に取り組んでいます。私たちがおもに行なっているのは、毎週2回のお弁当の配食と衣料品や歯ブラシやタオル、寝袋等の生活用品の配布です。そのための物資や資金は、全国各地の教会や、桜本教会の取り組みを知ってお支えくださっている、大勢の方々からの寄付に支えられてい

ます。

お弁当は、日曜日と木曜日の午前10時からお配りしています。準備は7時半から。毎週欠かさず参加しているのは6、7名。他教会等から来てくれるメンバーもいます。

路上生活者をめぐる環境は、今では法律や制度などの社会状況も変わっているので、この活動が始まった30年前と同じように語ることはできません。しかし30年を経た今も誠に残念なことに、困難な状況がなくなったわけではないのです。

私が赴任してからの3年半に限っても、桜本教会で毎回配食しているお弁当の数は、およそ30食から60食へと倍増しています。

小さな教会にできることは本当に微力で、無力感に苛まれることもしばしばです。それでも厳しさを増す状況を知らされるたびに、具体的にできることについて共に話し合い、助け合いながら、試行錯誤を続けています。

川崎で路上生活者支援の活動を行う中で日々痛感させられていることのひとつが、「奉仕すること」「与える」ことを通して、私たちが受ける「恵み」の大きさです。私たちは、目の前の人に対して「与えている」つもりでいても、実際には、その何倍も「与えられている」ということが、しばしば起こるのです。皆さんに支えられ続けさせていただいている活動から、最も多くのもを「与えられ」「受けている」のは、食事の用意をし、衣服をお配りしている、私たちなのです。

私たちがこの活動を通してお配りしているのは、決して「お弁当」や「衣服」という、「物」だけではないのです。お弁当をお配りするという行為、「出来事」をきっかけとして、配食の列に並んでいる方々との間に生まれる、主によって与えられた「出会い」「関係性」こそ、互いに、共に、分かち合っているのです。

桜本教会
お弁当の
準備始め
に確認と
聖書を読
みお祈り



農伝ボランティア みんなでワイワイ

長野や東北、北海道など寒冷地で育つと憧れたルバーブ。いま農伝にルバーブ畑が広がっています。それは現在の農場担当が1年生の農伝デーのとき、アジア学院からいただいたルバーブの種から始まりました(2023年10月5日発行「後援会だより」)。

和名はショクヨウダイオウ、免疫力が高まると言われるルバーブの畑はとっても大切です。収穫前の草刈り(写真)は、暑く辛い時間もありましたが、鳥のさえずりの中、終わった後の達成感はなんとも清々しいものでした。その後、見事にジャムの瓶が並んでいるのを見たときは嬉しくなり、「みなさん美味しく召し上がって！」と思いをこめてラベルを貼りました。



農伝ボランティア大募集！！と呼びかけて3年。ナラ枯れはじめ樹木の衰退を防ぐために始まった環境改善ワークショップの参加者からも農伝ボランティアに加わっています。

4月にはこの春から新しく加わってくださった方々と校地内を歩きました。畑の周りは菜の花とスマレの花々、「まるで山の中に来たよう！」と喜びの感想がありました。

長靴をはいて緑の山道を上り下りするうちに、足腰も自然と強くなる農伝ボランティアにあなたも参加しませんか。室内で絵ハガキの整理をしたり、農伝野草木茶づくり、イベント時の農伝グッズ販売のボランティアなど、いろいろな活動があります。ご希望に応じてご参加ください。お待ちしております。(後援会)

募集

農伝ボランティア共同作業

木曜日 9時～16時、ご都合のよい時間にご参加ください。

樹木・竹林整備。枝がら(しがら)づくり(枝と落ち葉を使い、雨水を土に浸透させる伝統技法、写真)。石畳づくり。ルバーブ畑、お茶畑、ブルーベリー、レモングラス畑の手入れ。

*火曜日の活動もあります。



募集

後援会実務委員 募集！！

2, 3か月に1回の笑いが絶えない実務会にご参加ください。

農伝を支えるためにいろいろなアイデアを出し合いましょう！

*農伝支援コンサート、教会バザーやマルシェの参加計画と販売。農伝グッズ開発。*後援献金のお願いと拡大。

2024 夏の体験から

初キャンプ

8月8日から始まった子どもたちとのキャンプは思い出に残るものとなりました。子どもたちとも初対面で、キャンプ初めての私には恥ずかしながらくまぐチャブレンを務められるか不安でした。けれども、子どもたちは意外と素直... (笑)。お互いに成長できたときだったと思います。写真は東京YWCA野尻キャンプ場、野尻湖の栈橋の様子です。



吉川拓実 (第74回卒業生)

夏休み

農伝の1年生のちょっと長め夏休みは、自由なことができるという聞いていた。社会実習も教会実習も、そして卒業論文もないからだ。とは言え、学校が用意している奨学金は2年生以上が対象だから、1年生はアルバイトに精励する。デイサービスの送迎のバイト他に、農伝の農場での農作業、図書室の入力作業もあって忙しい。写真のマリンちゃんは神学ドッグコース1年 (笑)。マリンの夏休み。



山崎麻里子 (1年生)

ブラジル20日間

ラキネット (「ラテンアメリカ・キリスト教」ネット) 主催ブラジル研修で、シゲ神父 (中ノ瀬重之神父: 写真右端) の聖書学習運動に参加、貧困地区の教会活動で子どもたちと出会い、もと路上生活者のトリンダー共同で美味しく楽しい開かれた聖餐を体験しました。学生・卒業生をベルボ聖書学習運動に送り出したいと強く願いました。



長谷川りゑ子 (聴講生/後援会実務委員)

農場のいま 農場担当 松本吉氏光

先日、農村伝道神学校農場の道に横断するU字溝を撤去し、そこに新たに石畳 (写真) を作った。僕も初めてのことで講師の方に教わりながら作業を進めた。石畳はいくつか異なる大きさの石の層を作り、その間に藁を入れて緩衝材に使う。一番表に来る層は大きな石を使い、組み方は必ず隣の石と2点以上接点を作って、形の異なる石を順々に重ねてゆく。あちらの石か、こちらの石かと試行錯誤しながら、一つ一つ据えた石がぐらつかないようにし、人や車が通っても崩れないような石畳にする。この表層の作業が難しいところであり、また面白いところでもあろう。

現在の私たちの生活感覚では、まっすぐなもの、あるいは直角なものに慣れてしまっているため、ずいぶんとてこずってしまうが、その分、みんなで協力して上手に石が合わさったときの喜び、石畳が仕上がったときの感動はひとしおである。U字溝から石畳にしたことによって、降った雨水がその土地に浸透してゆくだらう。今後どのような環境の変化が生じるのか楽しみである。



2024年度 農村伝道神学校後援会会計報告

2024年4月6日～2024年9月25日()内の数字は回数で、金額はその合計です。

Table with columns for donor names, amounts, and categories (e.g., 後援献金, 記念日他献金). Includes sub-totals for groups and individuals.

【訂正】2023年度献金2件を掲載しておりませんでした。お詫びして掲載いたします。間違ひなく入金いたしました。(事務局) 2023年9月6日、永山教会 神学校日献金38,000円 2023年10月10日、林間つきみ野教会 後援献金10,000円

Advertisement for 'のうでん森の工房' (Nouden Mori no Koubou) featuring '農伝竹のキャンドルライト' (Noden-take Candles) and '農伝支援コンサート' (Noden Support Concert).

事務局だより

三年前から『ナラ枯れ』や自然災害で緑豊かな農伝の校地のあちらこちらで木が倒れて、その対応に奔走しています。農伝の自然環境を未来のために、この豊かな自然を守り維持し後世に引き継ぐ事が、農伝に連なっている私たちの役割だと思います。その一環として昨年より環境改善プロジェクトをスタートしました。その一つ、小枝と杭と落ち葉を利用した伝統的造作の「枝がら(しがら)」造りをしています。農伝の豊かな自然を守り続けるには大変な労働力と資金がかかります。農伝の校地には絶滅危惧Ⅱ種の植物や珍しい生き物や多くの植物が生息しています。「緑豊かな自然環境

を守り」「植物の安らぎの場」を復活する事が、自然環境を破壊している私たちの務めだと思います。皆さまの力添えをこの農伝に注いでください。2023年度はひとつぶ献金に協力して下さった教会が2022年度から9件増加しましたが、今も倒木を含め農伝の緑豊かな自然が危機状態にあります。農伝の竹で作りました、ひとつぶ献金募金箱をお送りします。希望の教会の方からの連絡をお待ちしています。割れた竹献金箱がありましたら、お知らせください。お取り換えいたします。 沼田弘行(実務会陪席)

2024年度後援会会計報告

2024年4月1日～2024年8月31日現在

Summary table of financial reports with columns for '収入(献金・他)', '献金区分', '2024年度(4月～8月)', '前年度同期', and '前年同期比(%)'.

発行 農村伝道神学校後援会 会長 島しづ子 事務局長 長谷川りゑ子 千195-0063 東京都町田市野津田町2024 TEL 042-735-5775 FAX 042-735-5711 Eメール: 後援会 kouenkai@noden.ac.jp 農村伝道神学校 noden@pony.ocn.ne.jp ホームページ: https://noden.ac.jp/ 郵便振替口座 加入者名: 学校法人鶴川学院 00140-7-635524